

鹿児島湾のガラモ場調査

漁場環境部 研究専門員 猪狩 忠光

【目的】

適正かつ効率的な藻場回復(造成)指導に資するため、鹿児島県(本土)海域の藻場をガラモ藻場を中心に、面積・種構成などの現状を把握する。(平成29年度から2~3年をかけて鹿児島湾内の調査を行う予定)

【研究内容】

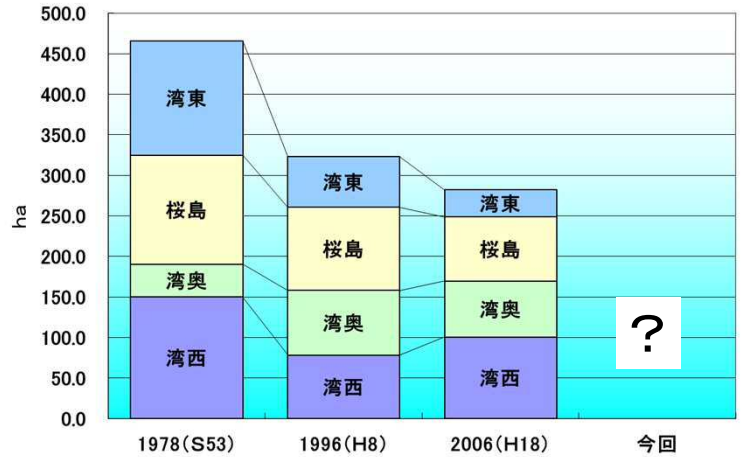
- 1 ドローン及び目視・実測による藻場分布と面積の把握
- 2 過去の調査地点での潜水調査による構成種の把握
- 3 過去の結果との比較



ドローン

面積は写真に写したポール等から縮尺を計算して推定

鹿児島湾ガラモ場の推移



【結果及び考察】



現在まで指宿市から始良市重富までと霧島市福山の一部を調査。比較的大きなガラモ場(一部)と構成種等を以下に示す。

1 指宿市大山崎周辺



潮間帯はヒジキ、潮下帯は亜熱帯性のコブクロモク、コナフキモク、ヒイラギモクの混成藻場であった。平成18年との違いは、イソモクが確認できなかったことであった。

2 指宿市知林ヶ島周辺



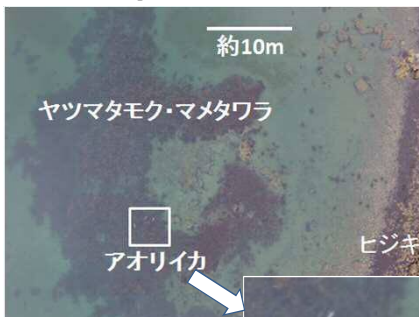
潮間帯はヒジキ、潮下帯はヤツマタモク、亜熱帯性のコブクロモク、コナフキモク、ヒイラギモクの混成藻場であった。平成18年との違いは、イソモクが確認できなかったことであった。

3 鹿児島市瀬々串1



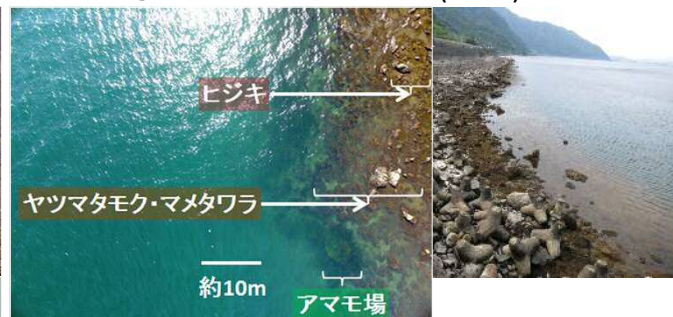
潮間帯はヒジキ、潮下帯はワカメ場、ヤツマタモク、マメタワラの混成藻場であった。平成18年との違いは、ウミトラノオが確認できなかったことであった。

4 鹿児島市瀬々串2



ホンダワラ類は、3と同様。藻場中にアオリイカが確認できた。

5 鹿児島市花倉～始良市重富(脇元)



潮間帯はヒジキ、潮下帯はヤツマタモク、マメタワラの混成藻場であった。平成18年との違いはホンダワラ類にはみられなかったが、砂地(同水深帯に带状)にアマモ場が確認できた。

6 霧島市若尊鼻周辺



潮間帯はヒジキ、潮下帯はヤツマタモク、マメタワラの混成藻場であった。平成18年との違いは、イソモクが確認できなかったことであった。

鹿児島湾内の西側を中心に藻場調査を行った。

- ・平成18年と比較し藻場の主構成種に大きな変化は見られなかった。しかし、ウミトラノオ、イソモクといった温帯性種が確認できなかった地点がいくつか見られた。
- ・亜熱帯性種が確認できた最北地点は平成18年同様大崎ヶ鼻であった。種はコブクロモクからヒイラギモクに変わっていた。
- ・面積については、現在解析中です。